

知的障害者の「福祉型専攻科での学びの意義」を考える

—本音で語る、私たちにとって学びはなんであったか？—

企画者	船橋 秀彦	（福祉型専攻科シャンティつくば）
司会者	寺門 宏倫	（茨城県立つくば特別支援学校）
	船橋 秀彦	（福祉型専攻科シャンティつくば）
話題提供者	福原 龍星	（福祉型専攻科シャンティつくばの卒業生）
	石井 恒	（福祉型専攻科シャンティつくばの卒業生）
	蓬田 祥子	（福祉型専攻科シャンティつくばの利用者）
	笹原 晃江	（福祉型専攻科シャンティつくばの卒業生の保護者）
	石井 繁雄	（福祉型専攻科シャンティつくばの卒業生の保護者）
	萩原 君江	（福祉型専攻科シャンティつくば）
指定討論者	小畑 耕作	（大和大学）

KEY WORDS: 福祉型専攻科 青年期教育 知的障害当事者

【企画趣旨】

現在、知的障害があっても 18 歳以降（特別支援学校高等部や高校卒業後）も、「もっとゆっくり学びたい」「きょうだいのように大学に行って青春を楽しみたい」との願いを受け止めた福祉事業の自立訓練事業等を使った学びの場（「学びの作業所」・「福祉型専攻科」「福祉型カレッジ」等と呼ばれる）の設置が広がっている⁽¹⁾。文部科学省では、「特別支援教育の生涯学習化」を掲げ、「学校卒業後も生涯を通じて教育や文化、スポーツなどの様々な機会に親しむことができるよう、教育施策とスポーツ施策、福祉施策、労働施策等を連動させながら支援していく」方策を示し、福祉型専攻科を「学校から社会への移行期」の生涯学習に位置付けた⁽²⁾。福祉型専攻科の広がりにより、新たな学びの可能性が拓かれる中で、その意義も問われている。そこで、本シンポジウムでは、実際に福祉型専攻科での学びを経験した知的障害当事者の青年やその保護者の声を聞く中で、青年期の「学び」の意義について考えたい。

具体的には、話題提供者に障害青年（知的障害）になっていただき、福祉型専攻科での学びの経験をふまえて、①小中高校時代の学びを振り返る、②福祉型専攻科の学びの実際と振り返り、③福祉型専攻科の学びを通しての自分の変化、④卒業後に福祉型専攻科を振り返って思う事、などを報告していただく。同様に、親御さんや関係者からも、ご報告いただく。福祉型専攻科の学びを、当事者がどう捉えていたのか、彼・彼女ら自身の内面を柱に青年期の学びの意義を深める。

本シンポジウム開催にあたり、福祉型専攻科シャンティつくば（自立訓練時事業）及び関係する本人・保護者の了解と協力を得ている。

福祉型専攻科シャンティつくば（茨城県）は、自立訓練（生活訓練）事業として、「もっとゆっくり学びたい」「青春を楽しみたい」という知的障害青年の願いを保障するために、2016 年 4 月に開設した。今月の青春、大入学、地域の施設から学ぶ、学生（利用者）企画、先輩に学ぶ、親から学ぶ、仲間から学ぶ、とユニークな授業（取り組み）をしている。それらを通して、18 歳以降（高等部・高校卒業後）の青年期教育の充実、ひきこもっていた方の人間性の回復、就労している方の文化的体験の場を保障している。

【話題提供者の趣旨】

■学生（利用者）への質問事項

- ・自己紹介（名前、所属）をしてください。
- ・シャンティに入る前は、何をしていましたか？
- ・なぜ、シャンティに、入りましたか？
- ・自分の良い所と、直したいところを教えてください。

- ・自分を動物にたとえると、なんですか？
- ・シャンティでしている（していた）勉強は？
- ・学校（小中高）の勉強と、シャンティの勉強のちがいは、どんなところですか？
- ・学校（小中高）の先生と、シャンティの先生（スタッフ）のちがいは、どんなところがありますか？
- ・シャンティで、思い出に残っている活動はなんですか？
- ・シャンティで、めんどくさいなあ、たいへんだなあ、と思うこと（思ったこと）は、なんですか？
- ・シャンティで、自分が変わったと思うことは何ですか？
- ・シャンティで、やってみたいこと（やってみたかったこと）は、なんですか？
- ・自分の将来の仕事を選ぶ（選んだ）のに、お金がどれだけ多くもらえるかで選びました（ます）か、それとも自分のやりたい仕事かどうかで選びました（ます）か？
- ・将来のことを、教えてください。

■保護者には、すぐに就労せずにシャンティを選んだ理由、我が子のシャンティでの変化（子ども期と比べて）などを、話していただく。シャンティの生活支援員には、知的障害者の青年期の時期の教育として、実践上大事にしている点等について、話していただく。

【指定討論の趣旨】

小畑さんには、18 歳以降の学びの場づくりの現況、国の政策動向、そして何より、学生（利用者）や親御さんの報告を聞いて、20 歳前後の知的障害青年の学ぶことの意義について、生活充実感、有能感、自己受容感などに関わって、お考えを提起していただく。また、青年期教育として求められる学びの質、支援方法の特質などについても、ご提案をいただきたい。

【参考】

- 1) 船橋秀彦「障がい青年の専攻科設置・『学びの作業所』作り運動の意義と課題」（二通論・藤本文朗／編『障害児の教育権保障と教育実践の課題』2014 年）
- 2) 「特別支援教育の生涯学習化に向けての松野文部科学大臣メッセージについて」平成 29 年 4 月 7 日、学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議報告「障害者の生涯学習の推進方策について」2019 年 3 月。
- 3) 小畑耕作・他「知的障がいのある青年のアイデンティティ発達と自己肯定感を支援する自立訓練プログラムに関する研究」『大和大学研究紀要』第 6 巻，PP.11-23，2020.3。
(FUNABASHI Hidehiko, TERAOKA Hiromi, FUKUHARA ryusei, ISHII hisashi, YOMOGIDA shouko, SASAHARA akie, ISHII sigeo, HAGIWARA kimie, Kobata Kousaku)